



大鹿村の中央構造線 安康露頭

Median Tectonic Line Outcrop in Anko, Oshika

国指定天然記念物
National Natural Monument



領家変成帯の岩石(おもに花こう岩)の破碎岩
Cataclastic rocks of Ryoke Metamorphic Belt

三波川変成帯の岩石(おもに緑色片岩)の破碎岩
Cataclastic rocks of Sanbagawa Metamorphic Belt

地質境界としての中央構造線(内帯と外帯の岩石の境界) Median Tectonic Line(Geological boundary fault)

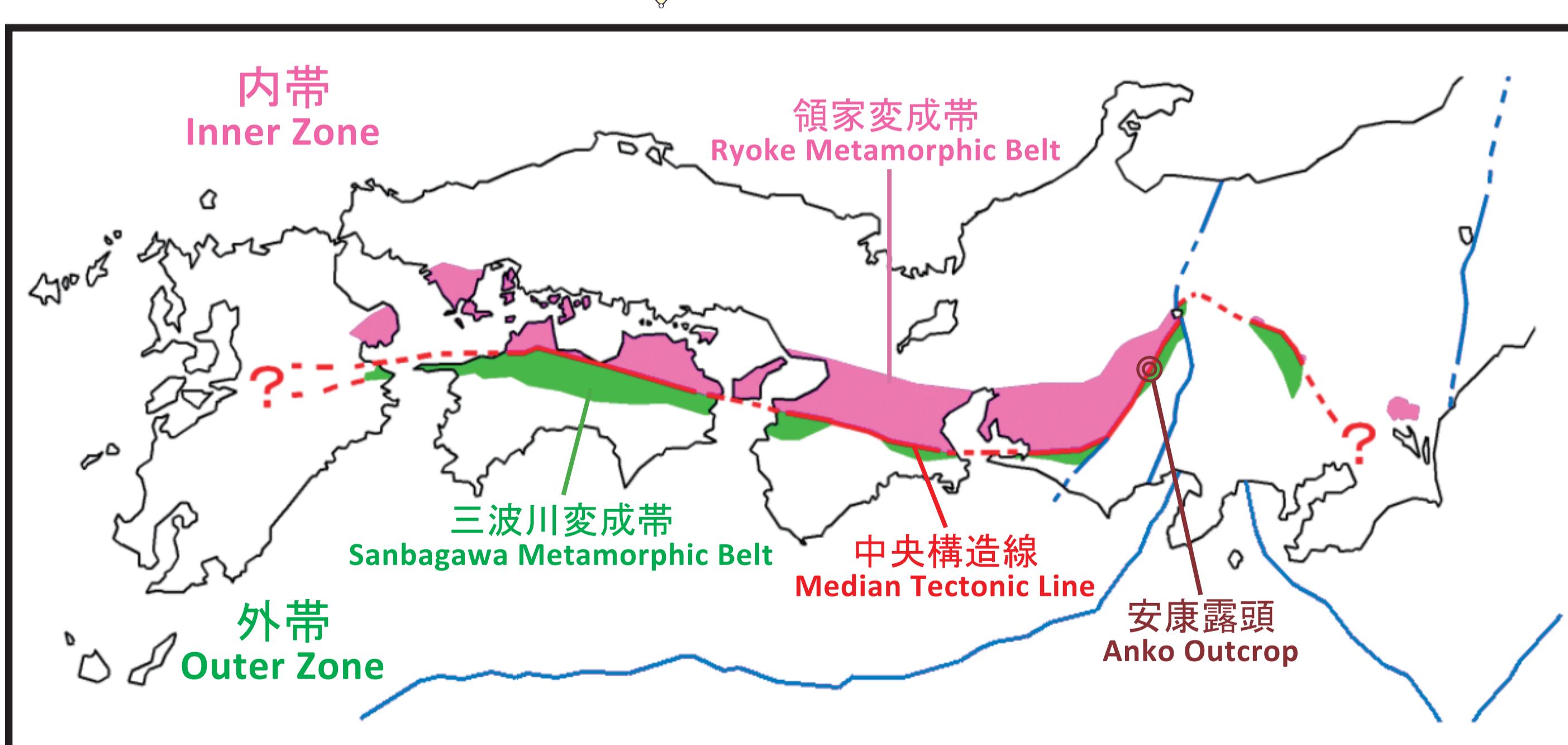
中央構造線は、恐竜がいた中生代白亜紀に誕生した長大な断層=ずれ目です。中央構造線の日本海側を内帯(ないたい)、太平洋側を外帯(がいたい)といいます。

左の内帯側では、白亜紀に内陸の火山帯の地下でマグマが固まった花こう岩と、その熱で鉱物が変わった変成岩です。同じ岩石が続いている地帯を領家(りょうけ)変成帯といい、茨城県の筑波山～瀬戸内海に露出しています。

右の外帯側は、同じ白亜紀に、冷たい海洋プレートが沈み込む海溝付近の地下深部で、高い圧力で鉱物が変わった変成岩です。こちらは三波川(さんばがわ)変成帯といい、埼玉県長瀬～大分県佐賀関半島に露出しています。

内陸にできた領家変成帯と、海溝付近の深部にできた三波川変成帯は、はじめは離れていたはずです。間にできた中央構造線がくりかえし活動し、間にあった地質帯が失われて、今のように関東～九州にわたって接するようになりました。それが中央構造線の、どの時代のどのような活動によるのかはまだよく分かっていません。

この、もともと離れてできた内帯の岩石と外帯の岩石が接している境界を「地質境界としての中央構造線」といいます。



もっと知りたい方は

大鹿村中央構造線博物館へ TEL. 0265-39-2205

More information at Oshika MTL Museum

2016/07/01 改訂